

国土交通大臣賞(4件)

国土交通大臣賞 <small>「事業所・地方公共団体等」分野</small>	受賞者名 鹿島建設株式会社 九州支店 (仮称)宮古島トゥリバー地区ホテル計画新築工事
	取組の実践場所 沖縄県宮古島市
	受賞テーマ 離島における自然に優しく、環境に配慮した工事事例

受賞者の工事はリゾートホテル開業を目的として三菱地所と鹿島建設の共同事業として進めているプロジェクトである。
 事業主 三菱地所(株)・鹿島建設(株)
 ・ホテル棟 RC造 8階 最高高さ 38.82m 客室329室
 ・従業員棟 RC造 8階 最高高さ 13.57m 収容人数198人
 工期 2021年2月28日～2023年2月28日(24か月)

【3Rへの取組み内容】

- ①発生する建設汚泥(杭残土)を基礎躯体の周囲の埋戻し材として利用する施工計画とした。杭施工時に発生する排土(杭残土)はセメントミルクと一緒に排土されるため、通常「建設汚泥」として産廃処分されるが、宮古島では、建設汚泥の処分施設が無いために、コストや工程、環境面を考慮し、建設汚泥の自ら利用を採用した。杭工事では、400㎡の建設汚泥が発生したが、セメントミルクまじりの建設汚泥を6か月程度天日乾燥させたのち、セメントで固化させ、場内仮置きした。発生した建設汚泥400㎡の全てを現場での埋戻し、盛土として利用し、産廃で処分した数量はゼロであった。また掘削工事で発生した30,000㎡の現場発生土は場外搬出、処分は行わず、場内に全て仮置きしたうえで現場内の盛土として利用した。
- ②島内に産廃の最終処分場が無いため、現場から排出される混合廃棄物の量をゼロとする活動を行った。職長会と一体となり、毎週水曜日に産廃コンテナに集積された廃材のさらなる分別活動(ふるいによる分別)を行い、現場からの混合廃棄物量をゼロにした。

【取組みのポイント、特長】

現場から発生する建設汚泥や発生土を場外へ搬出せず、場内での埋戻しや、盛土に使用した。また、通常は最終処分されてしまう混合廃棄物の分別を行い、混廃の数量をゼロとした。離島特有の条件があったが、現場での工夫を行い、現地の条件に適応した計画とすることができた。

【他の取組みに比較して優れている点】

現場から発生する建設汚泥や発生土を場外へ搬出せず、場内で埋戻しや盛土に利用することで、搬出車両から排出される排ガスやCO₂量を減少させ、地球の温暖化にも貢献することができた。

【離島での工事にあたり】

離島で工事を進めるにあたり、工事をする場所の自然や環境等、その土地のルールを考慮し、配慮することが必要である。施工者には現地の環境に合わせた施工計画や手順を立案し、影響をできるだけ与えない方法を選択することが求められる。



図 完成予想パース 建設汚泥で埋戻しされたエリア



写真 建設汚泥・発生土の施工中の状況



写真 現場発生土を利用した盛土状況



写真 職長会と一体となった産廃分別状況